

ばんたねニュース

FUJITA HEALTH UNIVERSITY BANTANE HOSPITAL



VOL. 47

2022年
2月28日発行

新型コロナワクチン3回目接種を開始しています!

予約方法 インターネットのみ

ワクチン ファイザー製 (2022年2月現在)

接種会場 ばんたね病院 1F 外科・整形外科外来

2021年12月から、まずは当院の職員を対象に新型コロナワクチン3回目の接種を開始いたしました。2022年1月からは一般の方を対象にインターネットでの予約を開始しております。



ご予約 いただける方

- ① 役所より3回目の新型コロナワクチン予防接種の予診票が配布された方
- ② 2回目の接種を完了した日から、一定の期間が経過した方 (※1)
- ③ 18歳以上の方

※1 詳しくは厚生労働省Website『追加接種 (3回目接種) についてのお知らせ』

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_booster.html をご確認ください。 [クリック](#)

■予約方法

当院Websiteにある予約申込フォームへアクセスし、申し込みをお願いいたします。

藤田医科大学ばんたね病院Websiteトップページの『お知らせ』にある『新型コロナワクチン予防接種 (3回目)のご案内』をクリックし、『3回目の新型コロナワクチン予防接種の申し込みフォーム』へアクセスしてください。

1

予約したい日程を選択する

2

予約者情報 (氏名、メールアドレス、生年月日、電話番号、接種券番号、2回目の新型コロナワクチンを接種した日) を入力する

3

申込み

4

予約確定 (登録したメールアドレスに予約確定メールが届く)

※ご予約される前に、迷惑メール設定している方は解除してください。

予約確定メールが届くようにパソコンや携帯電話の環境設定してください。 (@coubic.comよりメールが届きます)

※上記内容は記事作成時 (2022年2月1日時点) のものとなります。最新情報や詳細は当院Websiteにある『新型コロナワクチン予防接種 (3回目)のご案内』をご確認ください。



変形性股関節症

変形性股関節症とは

変形性股関節症は、関節軟骨が加齢などによってすり減り、股関節に痛みが起こる疾患です。股関節を形成する骨（主に骨盤と大腿骨）の発育不全が主な原因で、40代頃から痛みが出はじめることが多いです。特に女性に多く見られます。



図1 変形性股関節症の単純 X 線像（患側は左で末期変形性股関節症） ※当院患者様の X 線写真です。

変形性股関節症の分類と股関節の痛みについて

変形性股関節症の進行度合いは、前期・初期・進行期・末期に分かれます。痛みの感じ方は変形が進むとともに強くなるわけではありません。歩いた時や階段昇降時に痛い、あぐらをかけなくなったなど、症状の感じ方も人によって異なります。私の外来には股関節の痛みをずっと我慢して、かなり変形が進行してから受診される方もおられますが、そのような場合には治療方法が限られ、手術以外の治療法を選択することが困難な場合があります。変形がそれほど進行していない段階であれば、治療の選択肢が多くありますので、これまでとは違う股関節の痛みや違和感が続いた場合には、早めに股関節の専門医に相談しましょう。

変形性股関節症に対する治療

① 保存療法

治療は、まずは手術以外の保存療法が基本になります。股関節の動きを良くするための可動域訓練や筋力トレーニングを中心に、痛みや炎症を抑える薬の使用、ヒアルロン酸の関節内注射などの治療を組み合わせます。また、最近では患者さんご自身の血液から作る再生療法（血小板由来成長因子：PRPや脂肪由来幹細胞の関節内投与）も利用できるようになってきました。特に可動域訓練や筋力トレーニングなどの運動療法はとても大切で、股関節だけでなく、連動する腰や体幹なども鍛えることが重要です。連動する部分を鍛えることで、股関節の負担を軽減でき、痛みの緩和にもつながります。

について



② 手術療法

保存療法を続けても、股関節の痛みのせいで、生活の質が落ちた、もしくは望む生活ができないという場合は手術が選択されます。比較的年齢が若い前期・初期の方では、骨切り手術や関節鏡視下手術を行い、できるだけ自身の股関節を長く使えるようにします。また、進行期・末期では、痛みを感じている変形した骨や軟骨を切除し、人工関節に置き換える人工股関節置換術（THA）が適応になります。人工関節の手術は長期成績が向上し、患者様の満足度が高くなっているため年々件数が増えています。

THA に関する 最近のトピック について

最近では低侵襲な THA が注目を集めています。従来は、手術後に深くしゃがみ込んだらいけないなど、やってはいけないことが多くありました。しかし、人工関節の手術方法の進歩は著しく、できるだけ患者さんの身体に負担をかけない MIS（最小侵襲手術）という方法が進化を続けています。その中に、筋肉や腱、股関節を包む関節包を温存する、第三世代の MIS と呼ばれる方法があり、私自身はその方法を積極的に導入しています。従来よりも術後の痛みが少なく、動作制限がほとんどありません。第三世代の MIS にナビゲーションシステムを併用するとさらに効果は絶大で、「手術を受けたことを忘れる」と言われるくらい、スポーツやご自分の趣味を楽しまれている方が多くなっています。

早期の診断と 治療が必要

股関節に痛みがあっても、仕事やスポーツを続けたい、日常生活の質を改善したいなど、人によって望むことが違うと思います。ご自身が望むライフスタイルをかなえ、これからの人生をしっかりと送るためには、早めに受診し、早期に治療を開始することが大切です。ご自身の状態に合わせた治療を受けることで、生活の質が改善している方が多くおられます。治療を諦めず、まずは股関節の専門医にご相談ください。

外来日：火曜日午前



整形外科 教授
金治 有彦 医師

人工関節センター センター長
股関節外来・小児整形外科担当

【専門分野】

股関節外科、小児整形外科、スポーツ整形（股関節）、人工股関節手術（関節包靭帯を温存した人工股関節置換術、ナビゲーションシステムを使用した人工股関節置換術）、股関節疾患に関わる低侵襲治療（関節包靭帯を温存した股関節鏡視下手術、再生療法（APS 療法、PRP 療法、幹細胞治療））

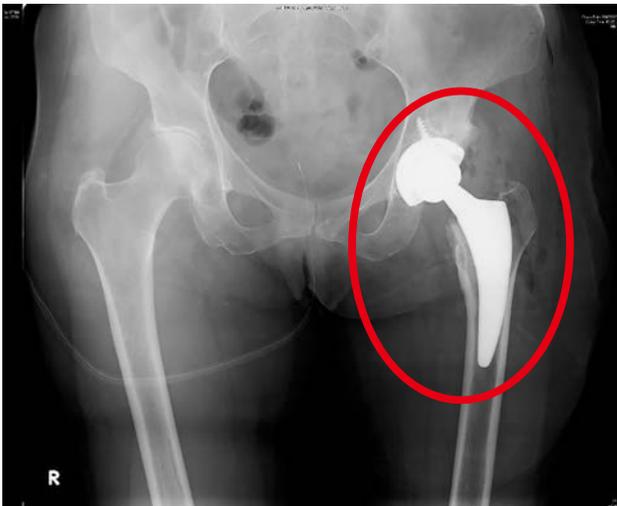


図2 術後両股関節 X 線像
※当院患者様の X 線写真です。



